

地域保育コース〈選択科目：地域型保育〉シラバス

<科目>

① 地域型保育の概要（講義・60分）

<目的>

1. 地域型保育の各事業の概要や位置づけについて理解する。
2. 地域型保育の特徴を学び、保育所保育との共通点、相違点について理解する。
3. 規模の小さい地域型保育の意義及びリスクについて学び、リスクを回避するための課題について理解する。
(注) 一時預かり事業の研修受講を促す。

<内容>

1. 地域型保育の事業概要

子ども・子育て支援新制度の概要を学び、地域型保育事業の制度について理解する。

(注) 研修を修了した者は、一時預かり事業に従事が可能であるが、実際に一時預かり事業に従事する際には、一時預かり事業の分類の研修を受講することが望ましい旨を説明。

(1) 子ども・子育て支援新制度の概要

- 1) 保育所の状況
- 2) 子ども・子育て支援新制度の目的
- 3) 子ども・子育て支援新制度の仕組み

(2) 地域型保育事業の概要

- 1) 事業類型

2. 地域型保育の特徴

地域型保育の特徴、意義、連携施設の役割について理解する。

- (1) 地域型保育の定義
- (2) 地域型保育の特徴
- (3) 地域型保育の理念
- (4) 連携施設の役割

- 1) 集団保育の経験
- 2) 情報提供・相談支援
- 3) 代替保育
- 4) 満3歳以上の保育の受け入れ

(5) 地域型保育の意義

- 1) 家庭的な環境での保育
- 2) 小集団を対象とするきめ細やかな保育
- 3) 同じ保育者が対応
- 4) 子どもの生活リズムの尊重
- 5) 家庭生活から集団保育に移行する間のきょうだい体験
- 6) 保護者への緊密な子育て支援
- 7) 地域の子育て支援

3. 地域型保育のリスクを回避するための課題

少人数であるため、密室性が高くなることによるリスクを回避するために必要な対応について理解する。

- (1) 開かれた保育
- (2) チームワークで行う保育
- (3) さまざまな地域資源の活用
- (4) 自己研鑽と健康管理
- (5) 保育ネットワークの活用

<研修に当たっての考え方>

地域型保育事業の概要を理解するため、研修終了後に従事可能となる事業の特徴に、地域型保育に生じるリスクを回避するための課題について学ぶ。

地域保育コース<選択科目：地域型保育>シラバス

<科目>

② 地域型保育の保育内容（講義・演習・120分）

<目的>

1. 地域型保育における基本的な1日の流れや保育内容について理解する。
2. 少人数の異年齢児を保育する際の方法、工夫、留意事項などについて理解する。
3. 新しく子どもを受け入れる際の留意点について理解する。
4. 計画や記録の必要性を学び、子どもの育ちの見通しをもって保育することの重要性について理解する。

<内容>

1. 地域型保育における保育内容

地域型保育で行う保育の特徴、保育に当たっての基本的な考え方、1日の流れについて理解する。

- (1) 地域型保育の特徴
- (2) 地域型保育の基本方針
- (3) 地域型保育の1日

2. 地域型保育の1日の流れ

子どもを迎え入れる準備から、帰宅までの1日の流れの中で留意する事項についてを理解する。

- (1) 子どもを迎え入れるまでの準備
- (2) 子どもの登園・受入
- (3) 自由遊び
- (4) おやつ・水分補給
- (5) 散歩・外遊び
- (6) 手洗い・うがい
- (7) 昼食
- (8) 歯磨き
- (9) 午睡
- (10) 目覚め・検温
- (11) おやつ
- (12) 自由遊びまたは散歩
- (13) 帰宅の準備
- (14) 保育終了後

3. 異年齢保育

様々な年齢の子どもを同時に保育する場合の留意点について理解する。

- (1) それぞれの発達過程の特徴
- (2) 異年齢保育の遊びの工夫
- (3) 異年齢保育による効果

4. 新しく子どもを受け入れる際の留意点

新しく子どもを受け入れる際に行うならし保育、発達段階に応じて必要となる配慮事項について理解する。

- (1) ならし保育の進め方
- (2) 0歳児の配慮事項
- (3) 1. 2歳児の配慮事項
- (4) ならし保育中の在園児の保育

5. 地域の社会資源の活用

保育所などの連携施設や地域にある様々な資源を活用し、開かれた保育と保育の質の向上を図ることについて理解する。

- (1) 連携施設の活用
- (2) 地域資源の活用

6. 保育の計画と記録

子どもをより深く理解し、子どもの育ちの見通しを持つこと、四季を感じる保育を行うこと、自らの実践を振り返るために

計画や記録が重要であることを理解する。また、連絡帳、保育日誌、健康観察記録、年間行事等の記録などの書き方について理解する。

- (1) 記録の種類
- (2) 連絡帳の書き方

7. 保育の体制

複数の保育者で行う保育における保育者の役割分担、チームワークの必要性、組織としての責任体制について理解する。

- (1) 家庭的保育における保育補助者の役割
- (2) 複数保育体制のチームワーク

*講義の合間に、遊び、手作りおもちゃ、グループ討議などを入れる。

<研修に当たっての考え方>

地域型保育で行う保育内容の特徴を理解するため、1日の保育の流れ、異年齢児で行う保育の特徴、新しく子どもを受け入れる場合の配慮事項、計画や記録の重要性等について学ぶ。

地域保育コース〈選択科目：地域型保育〉シラバス

<科目>

③ 地域型保育の運営（講義・60分）

<目的>

1. 設備及び運営の基準の内容について理解する。
2. 情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理などについて理解する。

<内容>

1. 設備及び運営の基準の遵守
地域型保育に関する設備及び運営の基準（「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第61号）、「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準」（平成26年内閣府令第39号））に規定されている内容について理解する。
2. 情報提供
利用者が適切に選択することができ、地域住民の理解と協力を得ることができるよう情報提供が必要であること、情報提供の方法、個人情報への配慮の重要性について理解する。
 - (1) 情報提供の目的
 - (2) さまざまな情報提供
 - 1) 行政による情報提供
 - 2) 関係団体等による情報提供
 - 3) 事業者による情報提供
 - (3) 情報の種類
 - (4) 個人情報への配慮
3. 受託までの流れ
子どもの受入までの流れを確認し、受入に関する留意事項について理解する。
 - (1) 問い合わせへの対応
 - (2) 見学の受け入れ
 - (3) 保護者との面接
 - 1) 子どもの状態について
 - 2) 保育について
 - (4) 保育を始めるにあたって
4. 地域型保育の運営上必要な記録と報告
運営上記録することの必要性、記録の種類について理解する。

<研修に当たっての考え方>

地域型保育の運営に必要な内容について理解するため、設備及び運営の基準において遵守すべき事項、情報提供の必要性とその方法、子どもの受入までの流れ、運営上の必要な記録や報告について学ぶ。

地域保育コース〈選択科目：地域型保育〉シラバス

<科目>

④ 地域型保育における保護者への対応（講義・演習・90分）

<目的>

1. 保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を学び、このために必要な知識と技術について理解する。
2. 地域型保育における保護者への対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解する。

<内容>

1. 保護者との関わりと対応
子育て支援として行う保護者支援の必要性、保護者支援の際の視点について理解する。
(1) 保育者に求められる役割
 - 1) 子育て支援の必要性
 - 2) ソーシャルワーク的機能の必要性(2) 地域型保育における保護者への対応
 - 1) 保護者の理解と協力
 - 2) 保護者への個別支援と対応
 - 3) 保護者相互の協力・連携
 - 4) 地域資源との連携・地域交流の活用
2. 保護者への対応の基本
「保育所保育指針」の第6章に掲げられている「保育所における保護者に対する支援の基本」の7つの事項について理解する。
3. 子育て支援における保護者への相談・助言の原則
望ましい対応をするため、保護者への相談・助言における原則を身につけることの必要性について学ぶ。
(1) 傾聴・受容・共感的理解
(2) 利用者・相談者のありのままの感情表出の促進
(3) 自らの感情のコントロール
(4) 1人ひとりの個別性の尊重
(5) 非審判的態度
(6) 利用者の自己決定の尊重
(7) 保護者のエンパワメント
(8) 秘密保持
4. 保護者への対応 ～事例を通して考える～
具体的な事例に基づき、保護者への対応の方法について検討し、理解を深める（演習）。

<研修に当たっての考え方>

地域型保育における保護者への対応について理解するため、保育者に求められる保護者支援の役割、保護者への対応の基本姿勢、保護者へ相談・助言をする場合の留意事項について学ぶ。また、具体的な事例に基づき、保育者がとるべき保護者への対応方法を検討し、保護者対応への理解を深める。

地域保育コース〈選択科目：地域型保育〉シラバス

<科目>

⑤ 見学実習オリエンテーション（演習・30分～60分）

<目的>

1. 見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて理解する。
2. 見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。

<内容>

1. 見学実習の目的

講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保に関する事項などについて、実際に保育現場を見学することで具体的なイメージを持ち理解を深めるとともに、今後実践する保育において具体的に参考とするという見学実習の目的について理解する。

2. 見学実習のポイントと配慮事項

見学先の事業者と子どもに対する配慮事項、見学する際に確認すべき具体的なポイントについて理解する。また、見学実習に当たって、感染症に罹患させないよう留意するとともに、見学先の子どもや保育者に関する個人情報等の取扱いに留意することを理解する。

- (1) 見学先と子どもたちへの配慮
- (2) 環境～安全で安心できる環境づくり
- (3) 一日の生活の流れと保育者・子どもの様子
- (4) 異年齢・小集団保育を生かす遊び
- (5) 地域資源の利用
- (6) 保護者とのかかわり
- (7) 複数の保育者体制、保育者間の役割分担、引継ぎ等
- (8) 保育者の保育観や保育方針
- (9) 見学の記録

※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。

<研修に当たっての考え方>

見学実習において留意すべき事項について予め理解するため、見学実習の目的、見学先とその子どもへの配慮事項、見学の際に確認するポイントについて学ぶこととする。

地域保育コース〈選択科目：地域型保育〉シラバス

<科目>

⑥ 見学実習（実習・2日以上）

※講義・演習に代える場合：（講義・演習：実習と同程度の内容を担保（1日以上））

<目的>

1. 地域型保育の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察を通して理解する。
2. 保育に取り組むに際して、具体的に参考になることについて理解する機会とする。（家庭的保育は、家庭的保育者個人の自宅であり、異なる地域の環境の中でそれぞれ独自の工夫をして、保育を展開していることに留意する。）
3. （見学実習を講義・演習に代える場合）子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通して理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。

<内容>

1日目 保育の1日の流れを見る

実践する保育について、受入から帰宅まで1日の流れを実際に観察し、理解する。

2日目 保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ

実際の記録や計画と書類を見て、どのような記録をするのかを理解する。

※ 従事を予定している事業を見学先とすることが望ましいが、難しい場合には、認可保育所での0～2歳児の保育に関する見学実習も可能とする。

※ 可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。この場合に、子どものおむつ交換や食事の介助等を学び、ミルクやほ乳瓶等の実物を知る機会を設けることが必要。

※見学実習を行う際には、研修実施機関が見学実習先との連絡調整等を行う。

<研修に当たっての考え方>

保育者として実践する保育の具体的なイメージを理解するため、実際の保育の場面を見学し、1日の流れ、記録や計画等の書類、保護者対応の実際等について学ぶ。